



細田総務部長

「機関誌」の復刊に当りて

茨城縣統計協會長
茨城縣総務部長 細田 武

輝かしい昭和二十八年の新春を迎え、こゝになつかしい「機関誌」を復刊するにあたり御挨拶を申し上げる機会を得ましたことはわたくしの最も喜びとするところであります。

本県の調査統計事業は中央、市町村当局及び関係方面の非常な御協力によりまして、目ざましく発展し、全国における統計先進県の名に恥じない、輝かしい足跡を印しておりますことは御同慶の至りであります。

今更申し上げるまでもないのでありますが「機関誌」を復刊する趣旨は一面において統計結果の速報を行い、新鮮な統計の活用に資するとともに調査統計に関します内外の情報及び紹介記事を登載し、更に一層県市町村の緊密な連絡を図り事業の円滑な運営を期しますること、又他面において関係者の資質の向上をはかりますための研究会の成果及び意見等も努めて登載すること、いたしまして調査統計の改善発達に寄与いたしたいこととあります。

何とぞこれが育成のため格段の御協力を賜わり、よりよい機関誌としての使命を達成することができますよう念願する次第であります。

最後に関係者の皆様方には、せつかく御自愛下され、ますます御発展あらんことをお祈りして御挨拶といたします。

復刊をよろこぶ

行政管理庁統計基準部長

美濃部 亮吉

永年の待望であつた「機関誌」の復刊は、茨城県下の統計関係者の大きなよろこびに違いない。

かえりみれば戦後の再建途上の地方統計界において、茨城県は独自の分野を開拓し、確固たる地歩を築いてきた。県統計協会の充実と強化、地方事務所調査課の設置による地方調査網の整備、各郡別に行われる統計大会その他の活潑な行事の数々、1950年センサス記念統計館の建設等われわれの知っているものだけでも枚挙にいとまないくらいである。そして他県の追隨を許さないような思いきつた企画が多いのである。

このような企画は、いずれも村田課長によつてたてられ、そして実行されたものであるから、村田課長の努力に負うところが大きいことは万人の認めるところであるようだ。しかし私は、それらの独創的な企画を受け入れることができる県民性がなかつたならば、今日の成功をもたらすはしなかつたであらうと思う。すなわち永い歴史のうちに培われた進取の氣風が県民性となり、これが文明の利器としての統計への積極的關心となり、今日の茨城県の統計の振興をもたらす要因となつているものと考える。

戦後順風に帆をあげたような統計の発達に伴つて膨張した統計機構は、多難な前途が横たわつている。しかし中央地方の統計家は手を携えて、著しく前進した国民の統計思想を一步も後退させないように努めなければならない。

この意味において、私は「機関誌」の復刊をよろこぶとともに、貴県下の統計家の一そうの御努力を望む次第である。

祝

復

刊

總理府統計局長 森 田 優 三

茨城県統計協会は創立以來活潑な活動を続けて来られた。地方プロツクの研究活動も極めて盛んであるし、まだ拜見していないが他県にその例を見ない統計館も経営しておられる。今回、暫く中絶されていた「機関誌」の復刊をみることになつたのは錦上更に花を添えるものであつて、誠にお芽出たいことである。謹んで祝意を表し、協会員各位の御熱意に敬意を表したい。

茨城県では地方プロツク毎にしばしば研究会が催されて見るべき成績をあげられておられるのであるが、この種の集会は回数に制限があつてそう度々開くというわけにもいかない。その上、集会で耳から吸収する知識は必ずしもその全部が記憶に残るとは申されない。これに対し「機関誌」は任意の回数発行することができ、日夕手許においてその記事は読む人の努力次第で一字残さず脳裡におさめることができる。統計事務にたずさわる人達はその知見をひろめる手段として用うる最良の方法であると思う。

高度化した今日の統計実務にたずさわる人は、絶えず自ら求めて理論と実践の進歩に遅れをとらない心構えが大切である。本誌が精選された記事によつて、協会員各位のこうした眞摯な要請をみたくことができれば、茨城県の統計業務は更に光輝を増し、ひいては県政を裨益すること極めて大なるものある可きを信じて疑わない。

復刊に際し、本誌の今後に絶大な期待を寄せ、一言祝辞とする次第であります。

「機関誌」の復刊に寄す

茨城縣町村會長 関 井 仁

今日われわれの生活に、なくてはならぬ一つの養素となつている統計数字を、普く知らせ平和茨城建設の目的のもとに、統計月報の「機関誌」が、関係各位の御努力によつて、復刊せられたことを、心からお喜びお祝い申し上げます。

人はえてして常日頃最も大事な基礎的工作を等閑にふしており、いざと云う場合に直面してはじめて「しまつた」もうすこし調査研究して置けばよかつた、資料が欲しい等と残念がる欠点を共有しているように思われる。私などその様な場面に度々出会つて苦勞した経験をもつている。

およそ調査統計の仕事ほど重要な仕事はあるまい、にもかかわらず一般世人からはすっかり忘れられている形である。それは全く表面派手に行われる仕事でなく、隠れた文字通り縁の下の力持ち的役割であるからである。立派に出来上つた工事の外装に対しては世人は褒めたゞえるけれども、目に見えない基礎工事に思いをいたすものは極めて少いであらう。

調査統計事務は恰もこの基礎工事であり、誰からも認められない、地味な仕事である。しかもその記録は物が鏡に写つたも同様、正確な個々の記録を集めた結果でなければならぬところに困難さがあり努力を要する点がある。この様な事務に日夜黙々と苦闘せられている関係各位に対し、この機会に衷心から感謝の意を表する次第である。

わが日本は漸くにして国連軍の羈絆を脱し、独立国として國際社会の一員に加わることを得たのであるが、眞の独立態勢を整えるまでには、国家も地方自治体も共に幾多の障害を乗り越えて進まねばならない。しかもその建直しの基盤をなすものが、正確なる統計数字であることを憶うとき、如何に調査統計の事務が重要であるかということ、今更ながら痛感するものである。

「機関誌」復刊に当り一言お祝いの言葉を申述べると共に、調査統計事務関係各位の御自愛御奮斗を祈り、併せてこの統計誌が町村自治の運営に多大の裨益を齎されんことを望んでやまぬ次第である。

「調査の機関誌」の復刊にあたりて
先輩を圍んでの座談會

日時 昭和二十八年一月十九日午後一時四十五分から
場所 水戸市南三の丸 統計館
主催 茨城県統計協会

中島武夫	大録	山中	村田道守	棚谷保雄	藤田芳雄	小祝秀雄	加藤敬愛	菊池忠壽	小林緑	高島万藏	關三喜	郡司常成	出席者 (敬称略)	
(現) 商工調査係長	(現) 縣勢調査係長	(現) 企調課長補佐	(現) 調課長	(現) 濟高課長	(現) 濟高課長	(現) 久慈郡村會事務局長	(現) 久慈郡村會事務局長	(現) 久慈郡村會事務局長	(現) 久慈郡村會事務局長	(現) 久慈郡村會事務局長	(現) 久慈郡村會事務局長	(現) 久慈郡村會事務局長	(現) 久慈郡村會事務局長	

以上出席のもとに「機関誌」の復刊に当つて過去の経験を語る座談会を催しました。その内容は主要次のようであります。

まづ山中課長補佐の開会のあいさつがあつて開始された。

課長 本日は非常にお忙がしい所御遠方の方々もお見え頂き洵に有難う御座居ます。私が調査課長として就任以來五年七ヶ月大過なくすごせて頂きましたことは、ひとえに先輩各位の御指導と御協力の賜ものと厚く御礼申し上げます。今日までなかなか先輩各位の皆様のお意見を拜聴する機会がなかつたので延引しておまして残念で有りましたが、本日御案内申し上げました処まげて御臨席下さいまして厚く御礼申し上げます。こゝに「機関誌」を復刊するに当りまして、先輩の皆様のお意見を拜聴してよいものを作りたいと思います。座談会をすゝめて参るのにどう

いう風にしたらよいでしょうか、御抱負、御経験なりの御意見を承りたいのであります。

菊池 司会を村田課長さんをお願いして、速記をとつたり整理するのに便利にしては如何ですか一同 賛成です。

課長 「機関誌」復刊だけと限定せず御経験その他統計全般の事に対して御伺ひ致したいと存じます。

では名前ですが如何でしょうか。

小祝 「茨城統計」という標題は、まづい上に統計文に限られた、せまいものであるので調査茨城と標題を廣くし行政、産業、経済、金融、交通、文化等あらゆる面をもうらすべきであり地方自治の記事をのせる様にしたらよいと思います。

大録 では月刊調査茨城としたらいかゞです。

一同 それでもいゝでしょう。

山中 調査茨城は今発行しておるので名称はどう

かと思うのですが。

一同 それでは名称はどつちでもよいでしょう。

高島 利用者は町村にとどめるのですか。

課長 市町村は勿論廣く一般に利用していただきましょう。「茨城統計」発刊頭初のもようを加藤さんをお願い致します。

加藤 「茨城統計」創刊は昭和十年でしたね。

郡司 そうでした。

加藤 初め私は関係が無かつたのです。私より先に入つておられた富岡福寿郎さんという人が創刊からやつておられたのでありまして、この人はいはらき新聞に長くおり、後東京日々新聞の水戸支局長を長くしておりましたが、この方が亡くなられてから私もいはらき新聞に長くいた関係と川崎さんと懇意にしていたので推されて富岡さんの後を引受け「茨城統計」にむすびついわけです。

山中 富岡さんがなくなられたのは昭和十一年十二月二十四日でしたね。

大録 「茨城統計」をみると昭和十二年三月から加藤さんが編集されましたね（古い雑誌を見ながら）

加藤 その後発刊を続けて來ましたが支那事變等のため紙も印刷も思うようでなくその上県廳各課でいろいろの月刊の本が発行されておりましたのが統制を受け「茨城統計」も各課のものと一緒に県の機関誌となり昭和十五年茨城県時報となつたのでありまして「茨城統計」は廢刊したのでなく統合されて発展的解消したので、その名が無くなつたというわけなのです。

高島 今加藤さんが申されたようにあの当時は紙の統制の爲に印刷も思う様でないので随分苦心して極く薄い物を発刊したりしておりました。

課長 「茨城統計」発刊についての先輩の皆様のお苦勞がよくわかりました。

皆様の中で一番の先輩はどなたでしょうか。

一同 それは小林さんですよ。

課長 そうですか、では小林さん関村長さんという順をお願い致します。

小林 別にこれということもありませんが、あの当時いたのは郡司さん関さんですね。大正九年の第一回の国勢調査の時から昭和十二年までおりました。統計文で県廳の勤めを終つたのです。

關 私も統計からいえば古いのですよ。郡役所時代ですからね。

課長 その当時は統計課ではなかつたのですか。

小林 統計係だつたのです。

高島 私は関さんと一緒です。

課長 そうですか、いつごろから統計課となつたのですか。

關 大正十五年七月一日郡役所廢止と同時に統計課が出来たのです。

その時の課長心得は川崎末吉さんですが、その後五級になつて課長になつたのです。当時は今の統計より樂で大したことはなく只集計すればよかつたでしたね。

課長 その当時の統計課はどこにあつたのですか

加藤 旧廳舎の二階(玄關の上)の狭い部屋で、現在の茨城会館のある処でした。その時は課員が五人でした。

山中 下は文書課だつたですね。

課長 大正十五年の頃の統計課はどういう仕事をしていたのですか。

關 郡役所のあつた時は郡役所で統計全部をやつていたのですが、各課で別々にやつたので、今のように調査課(統計課)が一カ所でやるようなことはなかつた、それでその仕事は内務、人口、農林水産業等でした。

課長 それでは郡役所で一さい統計調査をしていたのでいまの本県の地方事務所と同じですね。その当時統計課は何部に属していたのですか。

郡司 知事官房だつたのです。

課長 次に古いのは菊池さんでしょうか。

菊池 昭和四年四月から統計課にいたが、それまでは文書課にいたのです。

地方事務所が出来た際に筑波地方事務所に転勤、兵事厚生課長になりました。

課長 菊池さんの時代には何か特にあつたのですか。

菊池 これといつたものはありませんでしたが今私が心つよく感じていることは私共のいた時代と今の時代とでは仕事の内容がちがつており終戦後特にアメリカ式の統計により数段高い進歩をしている事は事実でありまして、私の時代の統計とはあらゆる面において格段の相違がありますが、すでに指導員大会の時にお話がありましたが、統計において現在茨城が全国で優秀県であるという事ですが、私共がよそに行つても

統計の話が出ると、茨城は優秀だという話が出て私も非常にたのしくおもっております。これも村田課長さんのおられるからでありまして感謝し喜んでおります。

課長 恐縮です。

關 私が遺憾千万に思いますのは作報の存在です。全然町村を相手にしない、町村を相手にしない統計は、何んにも出来るものではありません。課長さんもこの点御骨折をおねがい致します。米の割当の時も七〇〇町歩もちがつている状態です。人の信用しない統計は統計ではありません。地方自治体を相手にしないのはけしからんと思います。

藤田 私もその点では大いにたゞかいました。作報でも最末端は同じ調査員にやらせるのだが統計主任を信用しないから事実と相当の相違があるので本当に困るものです。

それにサンプルでやつておるから駄目なのです。

加藤 話はかわりますが、現在私は統計調査員をしていますが、人口統計調査はよいのですが商工業調査は今のまゝでは仲々よく調査が出来ませんので改める必要がある。

会社経営の甲の方は比較的よいのですが、乙の方の調査はまつたく出鱈目だと云うも過言ではないのです。

それは帳簿といふものが全然なく一ケ年をおもいおこして記入する状態ですのでよい統計が出来ません。

これは改善すべきであると思います。

郡司 以前の統計は統計以外に使用しないことになつておりますが今はどうですか。税務署で利用しておりますね。

關 それは事実でして以前は役場で見て行つたらしいです。私は税務署に行つて統計を利用した全部を書き直させた事実があります。

棚谷 私の役場では全然見せません。

課長 調査票は絶対に秘密に願わなければなりません。このことは関係方面によく願ひしてあるわけですが、秘密の保持という面については特に御協力をねがいたいと思います。

統計関係の法律には統計法と統計報告調整法があります。統計の認識を深めるといふ点で町村会でやつている町村吏員の講習に是非ともお話ししたいと思ひます。

菊池 それは出来ませう。

一同 それはいい事ですね是非実現して下さいように願ひます。

課長 都合がつかますれば統計行政という面でお話ししたいと思います。

菊池 それがいいでせう。

課長 さて種々お話をうかがいましたが「機関誌」を復刊するにはどうしても、先輩の皆様方の御指導をいたゞかなければなりませんのでよろしくお願ひ致します。是非とも御寄稿をお願い致します唯今小林さんから御寄贈いたゞきました全国統計大会誌を拜見致しますと以前から全国統計大会は盛大に行つていたのには敬服致しました。

では時間が少しありますので各係長の諸君から調査課の仕事の現況を簡単にお話願ひたいと思ひますが如何でせうか。

一同 そうですね是非共お願ひします。

山中 課は現在企畫資料、商工調査、人口調査、県勢調査、農林調査の五つの係でありまして、國の委託調査と県自体の調査を致しております。企畫資料係は庶務、経理及び講習会の開催各種統計資料の整備、閲覧、学事統計調査等の事務を行つております。

なお人口調査係は係長欠席のため代つて申し上げますが主として國の委任事務の方が多く、小売物価調査、消費実態調査、毎月勤労調査等で県自体の調査といたしましては人口世帯異動調査であります。なを昨年十二月一日現在で水戸市の霊間人口調査を実施しましたが、その内公表されることになつております。以上はその概畧であります。

大録 つぎに農林調査係は國で行う農業調査のうち縣市町村で利用出来ますのは、五年毎に行われているセンサス以外には全然ありません。これでは縣市町村の行政資料がとれませんので、県では市町村の協力を頂いて基本調査というものを夏冬の二つに分けて行つております。表式調査も従前と同じように実施しております。県勢調査係は金の面からみた農村調査を一四ヶ町村において実施しておりますが皆様の御協力によつて二年目が終ることになつております。次に県民所得の推計調査をとり上げ昭和二十六年の生産所得の推計をやつておりますが、これ

には各種統計資料の整備が完全に出来ていない状況でありますので非常に困難を感じておりますが今後正確度の高い資料を提供したいと考えております。來年の計畫としましては、本県の経済に必要な物資がどの経路で入ってくるか又どの経路で出ていくかという調査を実施したいと思ひます。以上農林及び県勢調査係の大略であります。

中島 次に商工調査係ですが私の係で担当している事業は商業調査即ち卸売小賣の調査であり次に工業調査であります。それは目下実施中でありまして毎年十二月三十一日現在によつて調査しております。更に生産動態統計調査に關しましては、現在繊維、機械、雜貨の諸關係を毎月毎月事業主から報告されそれを中央に進達しております。又先般は事業所調査を行なひましたがこの調査は必要に応じて統計局において実施するのであります。以上はその概要であります。

藤田 課長さん県の統計予算を沢山とつていただきたい。

小祝 事業を大きくやつて県費をもろうより手はありませんね。

高島 民間においても統計は非常に大切ですね。ですから統計思想の普及が必要であると思ひます。「機関誌」を調査員及び一般の人に有償でも

よいから配付して普及する必要があると特に痛感いたしましたのでこの点よろしくお願ひ致します。

菊池 今後「機関誌」發刊にあたり人員の不足資料蒐集その他印刷の校正等御苦勞はありませうが、よい月刊「機関誌」が出来ますよう御期待いたします。

高田 「機関誌」の内容をかたくるしいものでなく少し漫画とかその他ユーモラスな所をとりいれれば一般の人が見ても面白く統計の普及に役立つことが大でありますので特に必要であるとおもひます。一般にも有償でよいから行渡るよう願ひます。

課長 いろいろ有難う存じました、大いに参考になりました。まだまだお話もおありでせうが、予定の時間よりも三十分以上も経過しておりますのでこの辺で座談会を終りたいと思ひます。長い間貴重な御意見を拜聴し、まことに難うございました。

なおこの様な会合を少なくとも年一回機会を見て持ちまして御指導いただきたいと思ひますので何分よろしくお願ひ致します。

一同 賛成是非そうして下さい。
和氣あいあい裡に調査統計の發展を祈りつゝ散會した。(午後三時十五分終る)

文責在記者 (塩谷、鈴木生)

雑

報

◎森田、美濃部 兩氏國際統計協會々員に選任された。

國際統計協會事務局(ハーグ)より國際統計協會規約によつて、昭和27年8月1日から美濃部統計基準部長が職務會員に就任し、11月4日には森田統計局長が正會員に選舉された。

◎第四回統計審議會の開催

昭和27年12月12日、日銀特別會議室に於て、第4回給計審議會が開かれ、次の事項について討議が行われた。

諮問事項 第10号國民所得に関する國際連合への回答について
第11号統計機械の運用について

報告事項 1、統計報告調整法による承認事項(承認番号第30号より第37号まで)
2、國際統計協會の會員指名について。

(統計情報 1952年12月号より)